

第二十一番 勝林院の御詠歌（明照調）

（秋の御詠歌）

松 濤 基 作曲

♩ = 53



〔詠頭〕 ○ × ○ × ○ × ○ × ○ × ○ ×
あ — み — — だ — ぶ — — — に — —



○ × ○ × ○ × ○ × ○ × ○ × ○ ×
そ — — む — — — る — — こ — こ — ろ — — の い — —



○ × ○ × ○ ⊗ ⊗ ○ × ○ ×
ろ — — に — — い — — で ば あ — — き — —



○ × ○ × ○ × ○ × ○ × ○ ×
の — — こ — — ず — — え — — の — — た — —



第二十一番 山城の国 大原 勝林院

阿弥陀仏に 染むる心の 色に出でば 秋の梢の たぐひならまし
(法然上人御作)

勝林院は、文治2年(1186)秋、法然上人54歳の時、天台の大学者^{けんしんほういん}顕真法印の要請によって、南都北嶺の多数の名僧学匠に対し、お念仏の法門について談義された「大原問答」^{おおはらもんどう}のあったお寺です。一日一夜の談義の後、^{けんしんほういん}顕真法印は上人の教えに感嘆し、自ら先頭に立って多くの僧とともに三日三夜念仏行道され、その声は山谷に満ち林野に響き渡ったと言われます。法然上人の教えが広く伝わる契機となり、浄土宗にとって因縁の深い聖地であります。

大意 阿弥陀さまの本願を深く信じ頼む心は、常々にお護り・お育てを蒙り^{こうむ}、その御心が深く染み入り、日を追うごとに私たちのお念仏の暮らしに現れてきます。秋の深まりにより、一段と燃え立つような深い紅の色に染められていく梢のようです。

ポイント注意

- 息つぎに特に注意します。